

— 資 料 —

幼稚園における絵本の読み語りの実態

長瀬 莊一 幸本 由紀子* 富本 佳郎**

A Survey of Reading Picture Books to Young Children in Kindergartens

Soichi NAGASE, Yukiko KOMOTO and Yoshiro TOMIMOTO

要 旨

本研究は幼稚園における絵本の指導に関する実態を把握して、問題点を明らかにすることを目的とした。ここでは幼稚園教師130名に対して、子どもの好む絵本、読み語る機会、絵本の選択の仕方、読み語り方、などについてアンケート調査を行った。また、絵本を読み語る際に子どもたちが占める座席の位置を観察によって調べた。結果、幼稚園における絵本の指導はもっと計画的に進めること、家庭における絵本に関する実態をもっと詳しく把握すること、などの必要性が明らかになった。座席の位置の占め方と絵本を楽しむこととの間にはとくに目立った関係はみられなかった。

キーワード：絵本 picture book, 幼稚園 kindergarten,
絵本の読み語りの機会 opportunity of reading picture books,
絵本の選択 selection of picture books,
絵本の読み語り方 way of reading picture books,
座席の位置 position of seat

問題と目的

現在、幼稚園における絵本の指導は「言葉」の領域で取り上げられ、その指導の目標に関して幼稚園教育要領では「日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友だちと心を通わせる」、「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しみを味わう」、「絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりする楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること」と述べられている。そして、そのためには幼児期に絵本に関わる体験の大切さと、教師は集団の中でその幼児なりの感じ方や楽しみ方を大切にしなければならぬということ、幼児が落ち着いてじっくり絵本に触れることのできる環境づく

* 兵庫県豊岡市立豊岡ひかり幼稚園教諭

** 神戸女子大学名誉教授

りをする事、題材や幼児の理解力などに配慮して絵本を選択し、多様な興味や関心に応じる事の必要性など、絵本に関する指導の方法についての基本的な考え方が示されている。

しかし、絵本の指導についての個々の幼稚園の実情はかなりまちまちで、幼稚園によって、また担当者によって大きな差があるように見受けられる。一部では、かなり充実した指導を行っているところ、あるいは指導に熱心な担当者もみられるが、一般にはあまり計画的に指導が行われているとは言えないように感じられる。

そこで本研究では幼稚園における絵本指導の充実を図るための基礎的な検討の一つとして、現在の幼稚園ではどんな指導が行われているのか、その一端を明らかにすることを目的としている。

研究方法

ここで行ったのは、一つは幼稚園の教師を対象にしたアンケート調査と、もう一つは実際の保育場面における子どもについての行動観察である。

アンケート調査：兵庫県内の公・私立幼稚園の教師130名を対象に2001年6月6日と7月24日の2回にわたって行われた研修の機会に、それぞれの幼稚園における集団的な絵本の読み語りに関して、以下の項目について回答を得た。(実際の調査用紙は付表に示してある。)

- ①子どもの反応の良かった絵本
- ②1週間に読む絵本の数
- ③絵本を読む機会
- ④絵本を読み語る際の配慮
- ⑤その他の意見

行動観察：対象は神戸市内の私立T幼稚園4歳児30名のクラスにおける日常の保育の中での絵本の読み語り場面を、筆者の1人(幸本)が9回にわたって継続的に観察して、それぞれの子どもが占める座席の位置の変化と絵本に対する感想(引用文献1参照)との関係を分析した。

結果と考察

アンケート調査

ここでは上記の調査項目にもとづいて、(1)子どもが好む絵本、(2)読み語る機会、(3)絵本の選択の仕方、(4)絵本の読み語り方、(5)その他の配慮、に分けて考察した。

(1) 子どもが好む絵本

質問項目の順に回答結果をみると、まず、「読み終わった時、子どもの反応の良かった絵本のタイトルをご記入ください。主に何歳児かということもわかりましたらお教えてください。」という問いに対して、どの年齢の子どもにも共通して多くあがっていたのは次の絵本である。

- ・「ぐりとぐら」(中川李枝子・文、大村百合子・絵、福音館書店、1963)
- ・「はらべこあおむし」(エリック・カール・作、森比左志・訳、偕成社、1976)

どちらの絵本も、保護者からみても子どもの反応が良かった絵本であって（引用文献2参照）、広く愛好されているものである。しかし、このほかにも幼稚園で子どもたちの反応の良かった絵本としてはさまざまのものがあげられていて、子どもたちがあまり絵本の種類にとらわれることなく、絵本に対して広く興味を示していることがうかがわれる。

年齢別の特徴をみても、3歳児では次のようなものがあげられている。

- ・「おおきなかぶ」（ロシア民話，A・トルストイ再話，佐藤忠良・絵，内田莉沙子・訳，福音館書店，1962）
- ・「ぐるんぱのようちえん」（堀内誠一・文，西内ミナミ・絵，福音館書店，1965）
- ・「3びきのこぶた」（イギリス昔話，山田三郎・絵，瀬田貞二・訳，福音館書店，1967）

これらの絵本は繰り返しが多いストーリーという共通の特徴を持っている。これについて多くの教師が、3歳児は繰り返しが多い内容の絵本を好む傾向のあることを指摘している。また、家庭に対する調査においてもこれと同様の傾向がみられている。

また、4歳児では次のような絵本があげられている。

- ・「三びきのやぎのがらがらどん」（北歐民話，マーシャ・ブラウン・絵，瀬田貞二・訳，福音館書店，1965）
- ・「ねずみのでんしゃ」（山下明生・文，いわむらかずお・絵，ひさかたチャイルド，1982）
- ・「ぼちぼちいこか」（M・セイラー・文，R・グロスマン・絵，今江祥智・訳，偕成社，1980）
- ・「みんなうんち」（五味太郎・作，福音館書店，1981）

はじめにあがっている「三びきのやぎのがらがらどん」は家庭で子どもが興味を示した絵本と共通している。また、はじめの2冊には、途中で主人公が危険に遭う場面があるが、それを乗り越える内容になっていること、「ぼちぼちいこか」は言葉遣いが面白く、「みんなうんち」は自分たちの身近な生活に関わるユーモアをもって描かれているのが主な特徴である。教師からの回答にも、4歳児は生活に身近なテーマを描いた絵本を好む傾向のあることが指摘されている。

5歳児では次のようなものがあげられている。

- ・「じごくのそうべえ」（田島征彦・作，上方落語『地獄八景』より，童心社，1978）
- ・「めっきらもっきら どおんどん」（長谷川摂子・文，降矢なな・絵，福音館書店，1990）
- ・「さつまのおいも」（中川ひろたか・文，村上康成・絵，童心社，1995）

このうち、はじめの2冊は子どもにとって、絵を見ると少し怖い感じがするが、怖いけれど見てみたいという子どもの好奇心をそそる物語の内容になっている。このほかに、5歳児は冒険的な内容の絵本を好む傾向があることを教師は指摘している。「さつまのおいも」は、いもが擬人化されて描かれているが、ユーモアのある意外な展開が子どもたちを惹きつけているのではないかと考えられる。

また、5歳児は次のような童話絵本や、そのほか日本の昔話をもとにした絵本にも興味を示す傾向が指摘されている。

- ・「いやいやえん」(中川李枝子・作, 福音館書店, 1962)
- ・「おしれのぼうけん」(古田足日・文, 田畑精一・絵, 童心社, 1974)
- ・「エルマーのぼうけん」(P・S・ガネット・文, R・C・ガネット・絵, 渡辺茂男・訳, 福音館書店, 1963)

(2) 読み語る機会

これは「何冊程度の絵本を読み聞かせておられますか。」という問いと「いつ, またはどのような時に絵本の読み聞かせをされていますか。」という二つの問いに対する回答をまとめたもので, 表1および表2のような結果が得られた。

1週間に幼稚園で読み語られる絵本は, 平均して5~6冊という回答が42.4%で最も多く, 次いで3~4冊というのが30.9%であった。しかし, その数は1冊という回答から11冊以上までに広がっていて, 教師によって絵本を読み語る冊数には大きな差がみられる。

どのような時に絵本を読み語っているかについては, 「降園前」という回答が72.3%と最も多く, 幼稚園の教師にとって絵本を読み語る時間として設定するのは子どもたちが園から帰る直前が多いという実態が明らかになった。次いで, 「活動, 保育の導入」のために絵本を読み語るという回答が24.6%であった。このほかに, 「活動の切り替えをする時」, 「落ち着いた時間を過ごそうと思う時」がそれぞれ約15%, 「朝の集まり, 一斉保育の時」が10%であり, そ

表1 1週間に読み語っている絵本の冊数

1~2冊	9(9.6)
3~4冊	29(30.9)
5~6冊	40(42.6)
7~8冊	6(6.4)
9~10冊	8(8.5)
11冊以上	2(2.1)

注: 数字は回答数、()内は%

表2 絵本を読み語る時間帯

降園前	94(72.3)
活動、保育の導入	32(24.6)
活動の切り替えをする時	20(15.4)
落ち着いた時間を過ごそうと思う時	18(13.8)
朝の集まり、一斉保育の時	14(10.8)
昼食前	10(7.7)
昼食後	9(6.9)
時間がある時	8(6.2)
絵本を通して何かを伝えたい、共感したい時	6(4.6)
子どもの求めに応じて	4(3.1)
子どもが興味を持っている内容に合った絵本がある時	3(2.3)
個別に、自由遊びの時(不安を伴っている時など)	2(1.5)

注: 数字は回答数、()内は%

のほか、一日の保育活動の区切りになるような時間の合間に絵本を読み語ることが多く、絵本を読み語ることの意義を積極的に考えて、読む時間を設定している場合は少ないように考えられる。

回答のうちで最も多かった「降園前」という場合にしても、一日のしめくくりとして子どもたちの気持ちを落ち着かせるという意図が強く感じられ、子どもたちの人格のさまざまな側面の発達のために行うという積極的な意図はあまり感じられない。このことは次に考察する絵本を読み語る際の配慮事項の中でも、「読む時間帯」についての配慮が比較的少ないということにも表れている（表3参照）。

表3 絵本の読み語りをする際の配慮の程度

項目	配慮の程度				
	非常に	たびたび	時々	あまり	全くない
a. 絵本の選択	48(40.3)	56(47.1)	13(10.9)	1(0.9)	1(0.9)
b. 子どもの並ばせ方・座らせ方	25(19.7)	46(36.2)	38(29.9)	16(12.6)	2(1.6)
c. 読み方	64(50.4)	51(40.2)	38(29.9)	0(0.0)	0(0.0)
d. 絵本の見せ方	58(45.3)	48(37.5)	19(14.8)	3(2.3)	0(0.0)
e. 子どもの反応・態度	56(44.1)	54(42.5)	16(12.6)	1(0.7)	0(0.0)
f. 読む時間帯	16(12.9)	48(38.7)	41(33.1)	16(12.9)	3(2.4)
g. 日常の子どもの興味・関心	49(39.2)	52(41.6)	21(16.8)	3(2.4)	0(0.0)
h. 季節や園行事	59(48.4)	50(41.0)	21(17.2)	3(2.5)	0(0.0)
i. 子どもの発達状態	42(33.3)	52(42.6)	29(23.0)	3(2.4)	0(0.0)
j. 家庭での読み語りの実態	3(2.6)	19(16.5)	33(28.7)	40(34.8)	20(17.4)

注：数字は回答数、()内は%

また、読み語る場合の形態としてはクラス全体で行うことがほとんどで、個別に行うという回答や「子どもの求めに応じて」という回答はわずかであった。

(3) 絵本の選択の仕方

「次の項目のうち、絵本の読み聞かせをされる際に配慮されておられるかどうかを()に5段階の数字でご記入ください。」という問いでは、aからjまでの10項目について配慮の程度を尋ねたが、この結果は表3のとおりである。このうちで「絵本の選択」については、教師が比較的良好に配慮している（「非常に」と「たびたび」を合わせて87.4%）。これに関して、自由記述欄（「その他、絵本の読み聞かせをされる際に配慮されていること、お気づきになられたこと、ご意見等がございましたらご自由にご記入ください。」）に記された感想や意見を拾いあげてみると、次のようなものがある。

- ・子どもの反応が良かった絵本、好きな絵本を繰り返し読んでいる。

- ・子どもが「読んでほしい」と絵本を持ってきた時は読むようにしている。
- ・子どもたちが何度も繰り返して読みたい（見たい）と思うような絵本を選びたい。
- ・はじめは短くて簡単な話を選び、慣れてきて聞く力やイメージする力がついてきたら、少し長い話の絵本を選ぶ。
- ・子どもが主人公に投影しやすいような絵本を選択し、子どものつぶやきがあれば受けとめるように心掛けている。
- ・教師の好みに偏らずに、さまざまな種類の絵本を読むようにしている。
- ・子どもたちはリズム感のある絵本が好きである。
- ・新しい絵本がたくさんでていますが、昔から読みつがれている絵本は子どもたちを惹きつける良いものが多い。
- ・子どものふだんの遊びを見て、関心を持っていることを絵本に取り入れている。
- ・読み手が女性なので、男の子も好きそうな絵本を選ぶように心掛けている。

このほか、子どもの個人差を考えると絵本を選ぶのは難しいと感じている人もいるし、たくさん絵本を読み語っていると子ども自身が自然に良い絵本を選べるようになっていくと感じている人もいる。

(4) 絵本の読み語り方

絵本の「読み方」については、程度の差はあるが、すべての教師が配慮していると回答していて、他の項目に比べて最も配慮している観点だと言える。これに関連した項目についてみると、「子どもの反応・態度」や「絵本の見せ方」にもほとんどの教師が配慮している。しかし、それに比べて、「子どもの並ばせ方・座らせ方」には15%ほどの教師はあまり配慮をしていないようである。このことについては後述する行動観察において詳しく検討することにした。

絵本の読み語り方に関する自由記述による意見としては、次のようなことがあげられている。

- ・落ち着いた雰囲気の中で子どもたちが絵本を見られるようにしている。
- ・内容によって声の大きさ、読み方の抑揚、声色などを工夫している。
- ・集団では絵本の見せ方が難しい。少数で読んだ方がよいのか。
- ・理解できるかどうかを配慮している。
- ・前に立って読むよりも、自分も低い位置になって読んであげるほうが落ち着いて楽しい。
- ・子どもの気持ちになったつもりで絵本の世界に入り込む。
- ・好きな絵本は何度も読み語ってあげる。
- ・まず保育者がその絵本を好きになること。そして、その気持ちが子どもたちに伝わるようにし、絵本への関心が高められるようにしている。

(5) その他の配慮

以上に述べた(1)～(4)以外のことで、まず問題として感じるのは、「家庭での読み語りの実態」について「あまり配慮していない」という回答が34.8%、「全く配慮していない」が17.4%で、これらを合わせると全体の52.2%、すなわち半分以上の教師が家庭での絵本に関する実態について関心が薄いということである。しかし、このことに関する自由記述の中には

「家庭での読み語りが大切と考え、週に一回、絵本の貸し出しを行っている」という意見もあった。

このほかに、自由記述の意見として、「毎日、絵本の読み語り続けてきたことによって、話を聞く態度が変化してきている」のように、絵本の読み語りの効果についての実感を述べたものもある。しかしまた、「絵本を読み語った後で直ぐに、絵本の世界に入っているところに、どうだったと感想を求めないようにしている」という意見もあって、その効果を性急に追求しないほうがいいとも考えられている。

以上のことから、教師はまず子どもたちの興味・関心や楽しみ方について特に配慮していることがうかがわれ、どのように絵本を読み語れば子どもが喜ぶかということについて、さまざまな工夫をしていることが分かる。しかし他方、次のような問題点も指摘されている。それは、絵本の指導が各担任に任せがちなことである。幼稚園の教師は多くが絵本の読み語りに関心を持ってはいるが、教師同士で情報交換したり、問題点について話し合ったりする機会がほとんどない。こうした指摘は今後の重要な課題になると考えられるものである。

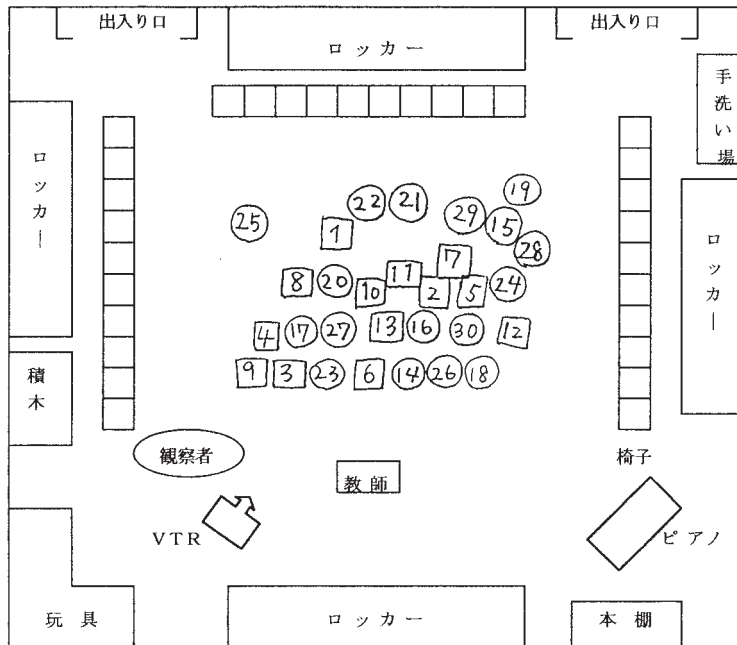
行動観察

先の教師に対するアンケートでは、絵本の読み語りをする際に「子どもの並ばせ方・座らせ方」に対する配慮の程度は他に比べて少ないという結果がみられた。そこでここでは、実際に子どもたちはどんな座席の位置を占めているのか、また、そのことと絵本を楽しむ程度とは何か関係がないのかを検討してみた。

このために、実際に幼稚園での絵本の読み語り場面における子どもたちの行動観察を行って、個々の子どもが全部で9回のそれぞれの場面で占めた座席の位置を記録した。図1-1と図1-2は第2回と第6回の結果を例示したものである。いずれの場合も子どもたちは保育室の床の自由な場所に座ることができることになっていた。それらの座席の位置を特定するために、図2に示すように子どもたちが座っている場所を6つの領域に区切って、それぞれに1～6までの番号をつけた。それにもとづいて個人別に座席の変化を示したのが表4である。

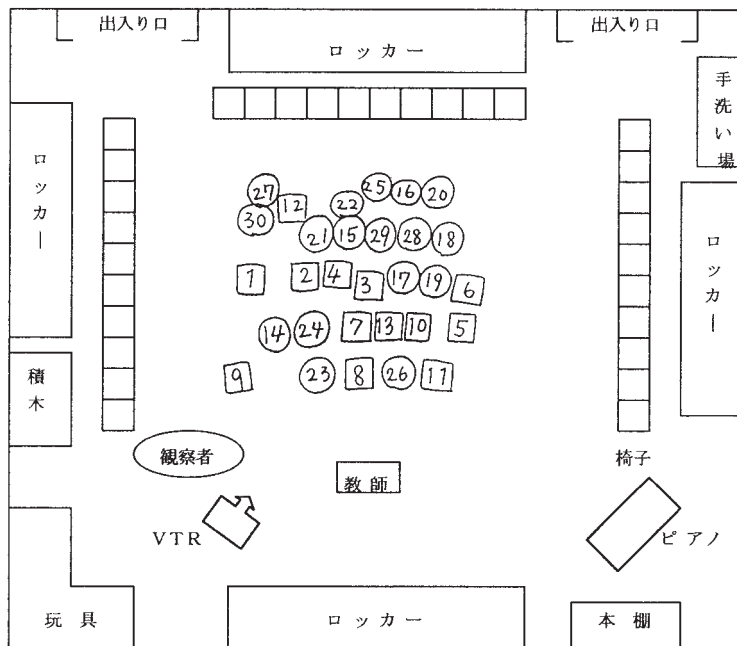
また、これをもとに座席の位置の固定化の傾向をみたのが表5である。表の中で「タイプ」として記入されている記号は個人の反応のタイプで、各回の絵本の読み語り直後に得られた子どもの感想において、どの絵本についても楽しんでいる者(A, A'), 絵本の違いによって反応の異なる者(B), あまり楽しんでいない者(C)を示している(引用文献1参照)。

これによる特徴として、座席が固定している子どもと変化している子どもの二つに分かれる傾向がみられる。各回とも教師に近く前の方に座っているのはM2, M3, M11, M13, F26で、後ろのほうに座っているのはF22, F25, F28, F29である。また、全部で9回のうち5回以上同一の領域に座っているのは男児には9名(このうちM11は領域1に定着している)、女児には11名いる。これは男児の69.2%, 女児の64.7%に当たっていて、全体として固定化の傾向がみられる。しかし、F24のように各回を通して1～6のすべての領域に座っている者もい



①～⑬：男児、⑭～⑳：女児

図1-1 子どもたちの座席の位置 (第2回「もりのなか」)



①～⑬：男児、⑭～⑳：女児

図1-2 子どもたちの座席の位置 (第6回「しろいうさぎと ぐろいうさぎ」)

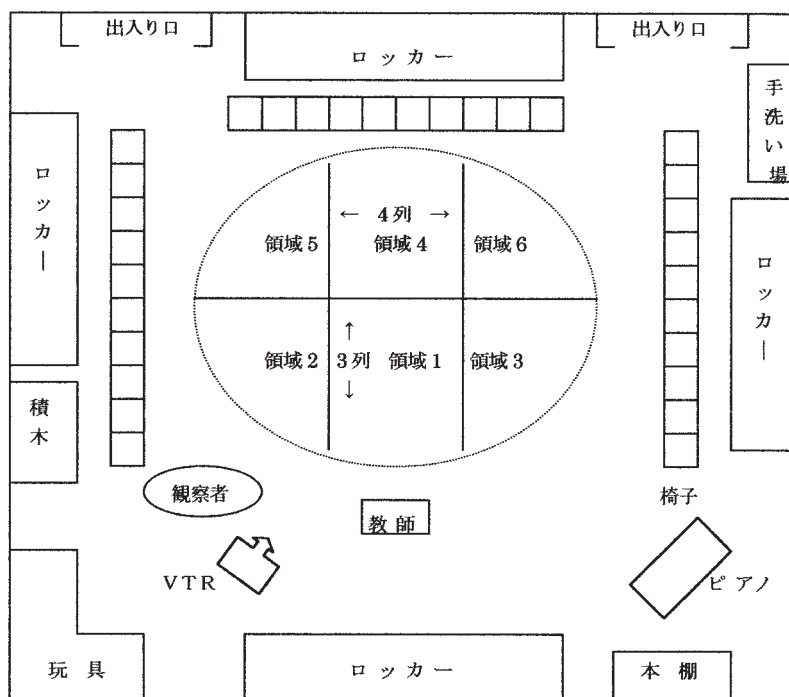


図2 座席の位置（領域別）

るし、このほか決まった領域が特になくて変化の大きい者もみられる。

男女別に座席の変化をみたのが表6である。これによると、男児のほうが女兒に比べて前の方（領域1，2，3）に座っている傾向がみられる。とくに、9回を通して前だけに座っている者は男児は3名、女兒は1名である。教師に最も近い領域1のうちでも最前列（4名枠）に座った子どもを各回ごとにあげると次のようになる。

第1回	M 1, M 3	F 19, F 27
第2回	M 6	F 14, F 23, F 26
第3回	M 6, M11	F 16, F 17
第4回	M 3, M11	F 19, F 26
第5回	M 8	F 17, F 19, F 30
第6回	M 8, M11	F 23, F 26
第7回	M 8, M10	F 23, F 26
第8回	M 3	F 17, F 19, F 23
第9回	M 3, M11	F 14, F 19

これをみると、最前列に最も多く座っていたのは女兒のF19の5回であり、次いで多いのは

表4 座席の変化(1) (個人別)

幼児	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
M 1	1	4	3	欠	4	2	欠	4	1
M 2	2	1	3	1	1	1	2	1	2
M 3	1	2	2	1	2	1	2	1	1
M 4	3	2	2	2	2	1	4	1	5
M 5	5	1	1	3	3	3	3	5	6
M 6	1	1	1	1	2	3	4	1	5
M 7	1	4	1	2	1	1	2	4	1
M 8	1	2	1	3	1	1	1	欠	5
M 9	4	2	欠	2	2	2	2	2	3
M10	1	1	2	欠	1	1	1	1	4
M11	1	1	1	1	1	1	1	1	1
M12	2	3	4	3	5	5	1	3	1
M13	1	1	1	1	1	1	1	3	1
F14	1	1	5	4	4	2	3	5	1
F15	6	6	1	4	4	4	4	4	6
F16	5	1	1	1	1	4	5	5	1
F17	3	2	1	1	1	1	1	1	4
F18	4	3	4	6	1	6	6	6	4
F19	1	6	3	1	1	3	1	1	1
F20	6	1	1	5	5	4	4	4	4
F21	2	4	4	4	4	4	5	4	4
F22	4	4	5	欠	4	4	4	5	4
F23	4	1	2	欠	1	1	1	1	2
F24	4	3	6	4	4	1	1	5	2
F25	4	5	4	5	5	4	5	4	5
F26	1	1	2	1	欠	1	1	3	1
F27	1	1	1	5	5	5	5	1	2
F28	4	6	4	4	4	4	4	4	4
F29	4	4	6	4	4	4	4	4	4
F30	3	1	4	3	1	1	1	2	1

注：1～6は座席の位置の領域を示している（図2参照）。

男児のM 3, M11, 女児のF 23, F 26の4回である。ここでは性差はみられない。また、これら5名の子どもが示した絵本の面白さについての感想は、反応のタイプでいうとF 23がAタイプ（高反応持続型）、M11, F 19, F 26の3名はACタイプ（準高反応持続型）、M 3はCタイプ（低反応型）であって、必ずしも高い反応を示しているとは限らないという結果であった。こうした反応のタイプと座席の占め方との関係をクラス全員についてみたのが表7である。

表5 個人の反応のタイプと座席の固定化傾向

幼児	タイプ	領域1	領域2	領域3	領域4	領域5	領域6	欠
M1	A'	2	1	1	3			2
M2	A'	5	3	1				
M3	C	5	4					
M4	A'C	2	4	1	1	1		
M5	B	2		4		2	1	
M6	A	5	1	1	1	1		
M7	A'C	5	2		2			
M8	B	5	1	1		1		1
M9	A'		6	1	1			1
M10	A	6	1		1			1
M11	AC	9						
M12	A'	2	1	3	1	2		
M13	A'	8		1				
F14	A	3	1	1	2	2		
F15	B	1			5		3	
F16	AC	5			1	3		
F17	AC	6	1	1	1			
F18	B	1		1	3		4	
F19	AC	6		2			1	
F20	A'	2			4	2	1	
F21	A		1		7	1		
F22	C				6	2		1
F23	A	5	2		1			1
F24	B	2	1	1	3	1	1	
F25	A				4	5		
F26	AC	6	1	1				1
F27	AC	4	1			4		
F28	A'				8		1	
F29	A				8		1	
F30	A	4	1	2	1	1		

注：個人の反応タイプの記号は次の型を表している。A：高反応持続型、A'・AC・A' C：準高反応持続型、B：変動型、C：低反応型

これにはそれぞれのタイプに分類される子どもたちが、どの領域に座る傾向があるかが示されているが、とくに目立った傾向はみられない。ただ女兒において、Aタイプでは領域4に座る者が多く、ACタイプで領域1が多いという傾向がみられた。また、第2回と第6回を例にとって絵本に対する感想と座席の位置との関係を調べてみたが、表8にみられるようにとくに目立っ

表6 座席の変化(2) (領域別・男女別)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	計
(男児)										
領域1	8	6	6	5	6	8	5	6	6	56
領域2	2	4	3	3	4	2	4	1	1	24
領域3	1	1	2	3	1	2	1	2	1	14
領域4	1	2	1		1		2	2	1	10
領域5	1				1	1		1	3	7
領域6									1	1
欠			1	2			1	1		
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	計
(女児)										
領域1	4	7	5	4	6	4	6	4	5	45
領域2	1	1	2			1		1	3	9
領域3	2	2	1	1		1	1	1		9
領域4	7	3	5	6	7	8	5	6	7	54
領域5	1	1	2	3	3	2	4	4	1	21
領域6	2	3	2	1		1	1	1	1	12
欠				2	1					

注：各欄の数値は該当する人数

た関係はみられなかった。

以上の結果から、絵本を読み語ってもらっている時の子どもたちの座席の位置と、その絵本に対して感じている面白さについての感想との間には、とくに目立った関係はみられなかった。子どもたちはそれぞれに自分が座った場所で絵本を楽しんでいるように考えられる。しかし、このことから直ちに子どもが占める座席については全く配慮する必要がないと結論づけるのは適当ではない。幼稚園において集団で子どもたちが絵本を楽しむためには、少なくとも絵本がどの子どもたちからも見えやすいか、その場所で読み語りがかかるかを子どもたちに確認する必要があるし、子どもたちの反応を見ながら、絵本の見せ方、読み語りの速さ、声の大きさに留意しなければならないから、そのことに関連して子どもたちの座席の位置についても適切な配慮が必要になってくると考えられるからである。どのような配慮が必要か、その具体的な内容を明らかにしていくことが今後の検討課題である。

また、実際によく見られることであるが、保育室の出入り口や窓が開けられていて外が騒がしい時には、とくに後ろの方に座っている子どもたちの気が散りやすいから、絵本を読み語る際の環境的条件については今後とくに留意しなければならない。

表7 座席と「面白さ」の程度との関係

タイプ	領域1	領域2	領域3	領域4	領域5	領域6	欠
(男児)							
A (2)	11	2	1	2	1		1
A' (5)	17	11	7	5	2		3
AC (1)	9						
A' C (2)	7	6	1	3	1		
B (2)	7	1	5		3	1	
C (1)	5	4					
	領域1	領域2	領域3	領域4	領域5	領域6	欠
(女児)							
A (6)	12	5	3	23	9	1	1
A' (2)	2			12	2	2	
AC (5)	27	3	4	2	7	1	1
A' C (0)							
B (3)	4	1	2	11	1	8	
C (1)				6	2		1

注：各欄の数値は該当する人数

表8 座席の位置と絵本の感想との関係

第2回 「もりのなか」

	①	②	③	④
領域1	7	5		1
領域2		2		3
領域3		1		
領域4	2	1	2	2
領域5		1		
領域6	1	1		1

第6回 「しろいうさぎとくろいうさぎ」

	①	②	③	④
領域1	5	3	1	3
領域2	2	1		
領域3	2			1
領域4	3	3		2
領域5	1	2		
領域6			1	

注：①とてもおもしろかった ②おもしろかった ③わからない ④つまらなかった

総 括

幼稚園教師を対象にした調査から明らかになった主な問題の一つは、幼稚園で絵本を読み語ることが、それほど積極的に計画されていないことである。これは絵本を読み語る機会の持ち方にも表れている。すなわち、絵本を読み語ることが子どもの人格の発達にどのような効果をもたらすかをあらかじめ考えて、絵本を選択したり、読む時間帯を設定したりしていることは少ない。多くの場合、他の保育活動の合間に行うというような副次的な扱いになっている。したがって、実際に読んでいる頻度や絵本の冊数にも担当者によって大きな違いが生じている。

まずこうした考え方を改めて、もっと絵本による指導の充実を図ることが必要である。

次に問題になるのは絵本の選択についてである。このことについては教師が比較的良好に配慮しているように見えるが、適切な選択をするためには絵本指導の目標が明確になっていなければならない。また、この選択にあたっては担当者自身の好みにあまりとらわれなくて、いろいろな種類の絵本を読むように心掛けることが勧められているが、たくさんの数の絵本の中から適切に選択することは容易ではない。そこで、目の前の子どもたちの興味・関心に応じて絵本を選ぶことはもちろんのことであるが、適切な絵本について幼稚園における教師間で意見ないしは情報の交換がなされることが望ましいと考えられる。効果的な指導を行おうとすれば、どうしてもこうした協同的な指導体制が必要になってくるのではないだろうか。

実際に保育室で絵本を読み語る場合の具体的な方法については、子どもの反応・態度や絵本の提示の仕方などについて、ほとんどの教師が何らかの配慮をしているが、その際、子どもたちが占める座席の位置についてはあまり気にしていないように見える。そこで本研究では実際に幼稚園での子どもたちの行動を継続的に観察して、絵本指導の場面において個々の子どもが占める座席の位置の実態から、何か目立った問題がみられないかを検討した。

その結果、個々の子どもが占める座席の位置にはある程度の固定化傾向が見られた。その傾向は女兒よりも男児にやや強く、一般に男児のほうが女兒よりも教師に近く前の方に座る傾向のあることが分かった。また、こうした座席の位置と絵本の面白さについての感想との間には特に関係はみられなかった。しかし、絵本を集団で読み語る初期の段階（例えば入園後まもなくの頃）や、もっと後の場合でも絵本に対してなかなか興味を示さない子どもには、こうした座席についての配慮が特に必要ではないかと考えられる。

このほか、特に問題があると感じられるのは、教師が子どもでの読み語りの実態を積極的に把握しようとしていないことである。家庭における実態については別に詳しく考察するが（引用文献2参照）、個々の家庭における絵本の読み語りについては大きな差のあることが予想され、そのことが幼稚園における絵本の指導に強い影響を与えると考えられるから、幼稚園における絵本に関する指導を充実していくためにも、家庭における実態をぜひとも把握しておく必要がある。まして、絵本が親子の絆を強める働きを考えると考えるならば、幼稚園での絵本の指導の充実が家庭での絵本の読み語りをますます活発にして、互いに相乗効果を上げていくような関係を作っていくことが重要な課題になってくるはずである。

以上のことから、幼稚園における絵本に関する指導の充実を考える観点として、日常の保育から子どもたちの実態を把握し、それをもとに指導の計画をカリキュラムの中にしっかりと組み込んで、どのように子どもたちに絵本を読み語り、絵本に親しませていくかという個々の教師の指導上の工夫を重ねるとともに、幼稚園全体として配置する絵本の種類や数の充実、その利用方法、絵本を読み語るための場所の整備など、環境的な条件についての改善を図ることがぜひとも必要である。

引用文献

- 1) 長瀬荘一・幸本由紀子・富本佳郎, 幼稚園における絵本の読み語りに関する研究 (1), 神戸女子短期大学論攷, 48, 1-20 (2003)
- 2) 長瀬荘一・幸本由紀子・富本佳郎, 家庭における絵本の読み語りの実態, 神戸女子短期大学論攷, 48, 139-150 (2003)

付表 幼稚園の教師を対象にした絵本の読み語りに関するアンケートの調査内容

1. 読み語った時、子どもの反応が良かった絵本のタイトルをご記入ください。主に何歳児かということもわかりましたらお教えてください。

・
・

(※もしありましたら、子どもがあまり興味を示さなかった絵本をお教えてください。)

・

2. 何冊程度の絵本を読み語っておられますか。

1週間に()冊程度。

3. いつ、またはどのような時に絵本の読み語りをされていますか。

・
・

4. 次の項目のうち、絵本の読み語りをされる際にどのように配慮されていますか。()に5段階の数字でご記入ください。

5…非常に配慮している	4…たびたび配慮している	3…時々配慮している
2…あまり配慮していない	1…全く配慮していない	

- a. 絵本の選択 () b. 子どもの並ばせ方・座らせ方 () c. 読み方 ()
d. 絵本の見せ方 () e. 子どもの反応・態度 () f. 読む時間帯 ()
g. 日常の子どもの興味・関心 () h. 季節や園行 ()
i. 子どもの発達状態 () j. 家庭での読み語りの実態 ()

5. その他、絵本の読み語りをされる際に配慮されていること、お気づきになられたこと、ご意見等ございましたらご自由にご記入ください。